

## 承認2号議案 2021年度の事業計画案

大宅壮一文庫は、国内唯一の雑誌専門図書館として発足し、50周年を迎える。大宅文庫の魅力は、多種多様の1万2700誌80万冊の収蔵雑誌群。そして雑誌の持つ奥行き深い記事資料力を引き出す独自の検索システム。索引は事件・事故や人物に分けて約700万件も蓄積されている。

今年度は「今後50年の大宅文庫」への出発点。コロナ禍、インターネットなど障壁は高いが、「日本の宝」とまで言われる資料力を生かす新規事業に取り組み、貴重な文化資源を後世に引き継ぐことを目指していく。

### <50周年記念イベント>

1971年開館から、今年5月17日で50周年になる。コロナ禍の中だが、出来る範囲で下記の記念イベントを展開する。

▽文庫の無料開放＝ゴールデンウィーク期間中の5月2日(日)、3日(祝日)の2日間、入館料無料で特別開放する。

期間中、1階通路や2階閲覧室を使い、①収蔵の創刊号展示②大宅翁の写真展示③書庫案内(午前、午後の計2回)④誕生日雑誌(週刊朝日、週刊文春)の目次複写をパウチして贈呈――など。

▽大宅壮一文庫所蔵総目録の刊行＝出版社の皓星社の協力で、5月に発刊予定。全収蔵1万2700誌の雑誌群の全容が初公開される。定価3万円。収蔵雑誌の目録はこれまでに、1980年、1983年刊行の索引目録の中で、所蔵の一部である1100誌と、1500誌分が紹介されている。

▽大宅壮一文庫解体新書(仮題)刊行＝大宅文庫・雑誌文化研究会のメンバーが、文庫所蔵雑誌を使い、様々な角度からテーマを選択し、研究論文を作成して1冊の本にまとめて出版する。出版社は勉誠出版。5月刊行予定。主なテーマは、「大宅壮一と大宅壮一文庫」「雑誌広告欄に見る、出版・作品・人のネットワーク」「『大宅壮一文庫雑誌記事索引』にみる性風俗の歴史」「週刊誌の時代――文学との関わりを中心に」「週刊誌のなかの『寄せ場』――山谷・釜ヶ崎を中心に」など。

雑文研メンバーは以下の13人。九州大学名誉教授・有馬学、立教大学教授・石川巧、帝京大学教授・阪本博志、京都大学教授・落合恵美子、早稲田大学教授・鳥羽耕史、千葉大学教授・大原祐治、佛教大学教授・加藤邦彦、奈良大学教授・光石亜由美、鹿児島大学准教授・多田蔵人、関西学院大学教授・難波功士、東京大学准教授・前島志保、日本大学研究員・後藤

美緒、東邦大学准教授・鈴木貴宇

(敬称略)

- ▽雑誌記事人物索引2020年版刊行＝日外アソシエーツからオンデマンド出版。これまで2019年版～2010年版の10年間分を刊行している。
- ▽大宅文庫ニュース特集号発行＝「Next 50 特集号」と銘打ち、新たな50年へのリスタートのアピールをする。7月末発行予定。
- ▽記念フォーラム＝11月～3月に、コロナ禍の鎮静化を待って開催を企画。雑誌をテーマの座談などとする。

### ＜大学等との“産学連携授業”の実施＞

大宅文庫の雑誌群と独自の記事索引の魅力を、学生にPRするため、キャンパスに出向いての講座やガイダンスを、2021年度も実施する。

専修大学で雑誌ジャーナリズム論講座、中央大学でガイダンス、東洋美術学校で産学連携授業など、多彩な形で雑誌の秘める素晴らしい資料力をアピールする。

▽専修大学＝ジャーナリズム学科から「雑誌ジャーナリズム論講座」を依頼され、雑誌の魅力と大宅文庫の実力を知ってもらう機会のため受託した。マスコミ志望の学生が聴講するため、雑誌取材・編集の現場を学んでもらえる内容を企画。出版各社に協力依頼をして、驚くほどの豪華講師陣が揃った。講座は下期（9月～1月）の14コマで、大宅文庫職員が大宅壮一、収蔵雑誌群、記事索引の紹介などで4コマ。残り10コマは、多彩な雑誌編集担当者が担当する。（10ページ「専修大学雑誌ジャーナリズム論」参照）

▽中央大学＝図書館情報学授業の一環として「Web OYA-bunko」ガイダンスを実施する。時間は90分。

授業は文庫職員が講師を務め、大宅壮一や大宅文庫の紹介、独自の大宅式分類法での雑誌記事索引採録方法などを説明。Web を利用してのテーマ検索などのテクニックもレクチャーする。

▽東洋美術学校＝クリエイティブデザイン科の3年生がグループに分かれ、大宅文庫の来館者増戦略の作品を、3か月間かけて授業で制作、発表する。2019年度に次いで2度目の試み。前回の作品は、パシフィコ横浜で開催した図書館総合展の大宅文庫ブースに展示し、来館者から「これまでとは全く違う感じの宣伝」と、大変好評だった。